

■手をつなぎ、心通わす 誘(ゆう)・融(ゆう)(融け合う)老上(老上小学校)

1 【活動の趣旨】

創立134年の歴史がある本校は、様々な場面で多くの地域の方から支えられてきた。平成28年4月に老上西小学校が新設され分離したが、駅周辺の開発により、今後も児童数が増加する中で、地域の方が本校に寄せる思いは引き続き熱いものがある。本取組により、子どもたちが身近な地域の方の考え方や人柄などにたくさん触れ、ふるさとを愛し、豊かな人間性を身につけてほしいと願い、実践している。

2 【特徴的な活動内容】

○老上 花の輪プロジェクト

3年生が「老上 花の輪プロジェクト」の取組を行った。①地域の方やゲストティーチャーの指導のもと、学区や学校を花で彩るために、子どもたちの案から花を育成し、地域にある公共施設や店舗に配った。②児童の郷土愛の醸成とともに地域と学校が連携して地域のあり方を考え、行動する活動となっている。③市長を表敬訪問し、取組内容を発表した。



【たねだんごづくり】

3 【実施に当たっての工夫】

○地域コーディネーターや各学年の担当が、地域の方と学習内容について連絡調整を行い、プログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいを協力者に伝え、学校と地域の取組がつながるようにしている。また、各学年の取組を地域の方を招いて報告したり、取組に込めた自分たちの思いを伝えるチラシを配布したりするなど、学習を地域に発信する取組も行っている。

4 【事業の成果】

○学校運営協議会において、学校と地域が互いに求めていること、できることを意見交換する場を設けた。学区地域協働合校推進委員は趣旨を理解し、世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、家庭内で地域の話が話題にのぼるなど、家庭教育的な役割も果たしている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

○取組を充実させるため、入念な打合わせや準備が必要となる。今後も継続して取組を図っていくためにも、学校・地域双方の負担を軽減していくことが必要である。また、地域の方の高齢化も進んでいるため、新規の学区地域協働合校推進委員・ボランティアの確保も必要なことである。地域や保護者への発信や円滑な情報の共有のためにも地域コーディネーターの果たす役割がより重要になってくると考えている。